CRX-E320

CDレシーバー

ヤマハCDレシーバーCRX-E320をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保障と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■ 保障書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■　記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■　「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
● 異常なにおいや音がする。　● 異常に高温になる。
● 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。
● 重いものを上に載せない。
● ステープルで止めない。● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。● 無理な力を加えない。
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため本機を設置する際には:

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右10cm、上10cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

ディスクの挿入口や、放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

ディスクをセットする際は、手をディスクトレイに挟まれないよう注意する。

閉めるときに挟まれて、けがの原因になります。

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

電池は極性表示(プラス＋とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

ディスクの挿入口には手を入れない。
本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。
ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

レーザー光源をのぞき込まない。
レーザー光が目に当たると、視覚障害の原因になります。

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

はじめに

準備と接続

基本操作

応用操作

その他の情報

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

特長

・ MP3/WMA、CD-R/RW、音楽 CD 対応
・ MULTI JOG ダイヤルによる簡単操作
・ 多機能リモコン付属
・ USB デバイス再生機能
・ デジタル出力端子搭載

本書について

・本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
・「ご注意」では操作・設定を行うときに留意すべき事項、 では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
・本書は製品の生産に先がけて作成されたものです。製品改良などの理由で実際の製品や梱包箱と内容が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

付属品

梱包箱を開封後、以下の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル

① STANDBY（スタンバイ）/ON（オン） キー
電源のスタンバイ／オンを切り替えます
（14 ページ）。

本機はスタンバイのときにも少量の電力を消費します。

② ⏏ キー（ディスクトレイ開閉キー）
ディスクトレイを開閉します（17 ページ）。

③ ディスクトレイ
ディスクをセットします。

④ ディスプレイ
再生状態や設定などが表示されます（4 ページ）。

ディスプレイの外装保護シートは、はがしてご使用ください。

⑤ □ キー（停止キー）
再生を停止します（17 ページ）。

⑥ INPUT（インプット） キー
本機の入力ソースを選択します（16 ページ）。

⑦ ▷/⏸ キー（再生／一時停止キー）
再生を開始または一時停止します（17 ページ）。

⑧ USB ポート
USB デバイスを接続します（13 ページ）。

⑨ PORTABLE（ポータブル） 端子
ポータブルオーディオデバイスを接続します
（13 ページ）。

⑩ PHONES（フォンズ） 端子
ヘッドホンを接続します（13 ページ）。

⑪ SOUND（サウンド） キー
調節するサウンド設定を切り替えます
（32 ページ）。

⑫ MULTI（マルチ） JOG（ジョグ） ダイヤル
チューナーモード：ラジオの周波数の調節や、
放送局の登録をするときに使用します。
CD/USB モード：前後のトラックにスキップ
します。

⑬ MODE（モード） キー
MULTI JOG ダイヤルの操作モードを切り替えます。

⑭ TIMER（タイマー） キー
タイマー機能またはスリープタイマー機能を設定するときに使用します（27、28 ページ）。

⑮ リモコン受光窓
リモコンの信号を受信します（8 ページ）。

⑯ VOLUME（ボリューム）
音量を調節します（16 ページ）。

ディスプレイ

① TUNED（チューンド）インジケーター

放送局を受信しているときに点灯します。

② メインディスプレイ

ディスクや USB デバイスを再生中のトラック番号や経過時間など、さまざまな情報を表示します。

③ インジケーター（タイマーインジケーター）

タイマー機能使用時に点灯します（27 ページ）。

④ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマー機能使用時に点灯します（28 ページ）。

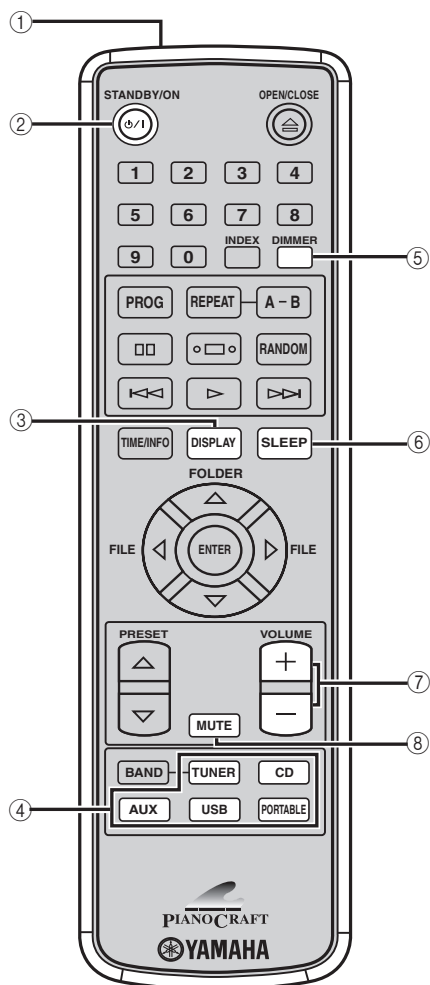
⑤ STEREO（ステレオ）インジケーター

自動選局または自動登録を行っているときに、電波の強い FM ステレオ放送を受信すると点灯します。

⑥ USB インジケーター

USB デバイスを本機に接続すると点灯します。

リモコン

■ 共通の機能

共通のキー操作

① **赤外線送信部**

リモコン操作用の赤外線信号を送信します（8 ページ）。

② STANDBY/ON（スタンバイ/オン）(⏻/I) キー

電源のスタンバイ／オンを切り替えます（14 ページ）。

③ DISPLAY（ディスプレイ）キー

ディスプレイの表示内容を切り替えます（29 ページ）。

④ **入力選択キー**

本機の入力ソースを選択します（16 ページ）。

⑤ DIMMER（ディマー）キー

ディスプレイの明るさを調節します (29 ページ)。

⑥ SLEEP（スリープ）キー

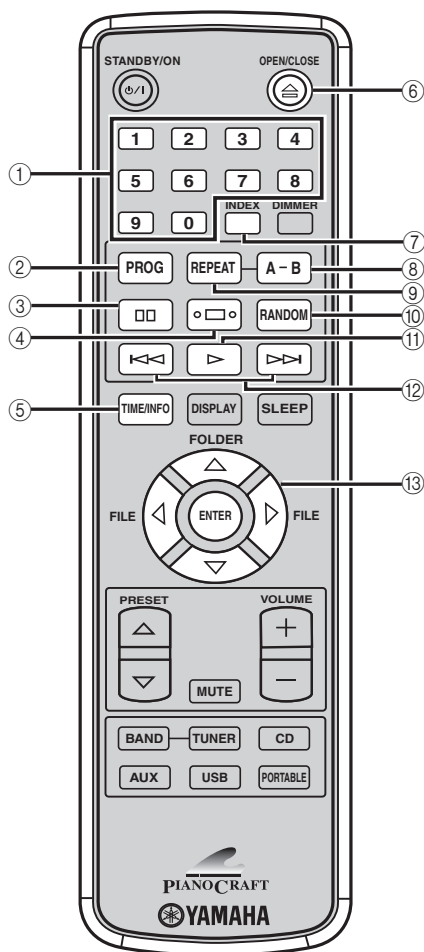
スリープタイマーを設定します (28 ページ)。

⑦ VOLUME（ボリューム）+/ −キー

音量を調節します（16 ページ）。

⑧ MUTE（ミュート）キー

消音します。再度 MUTE キーを押すと、消音を解除します（16 ページ）。

■ CD/USB モード

以下のキー操作は入力ソースに CD または USB を選択したときの操作です。

① 数字キー

数字を入力するときに使用します。

② PROG キー

プログラム再生を設定します (22 ページ)。

③ ⏸ キー（一時停止キー）

再生を一時停止します（17 ページ）。

④ □ キー（停止キー）

再生を停止します（17 ページ）。

⑤ TIME/INFO キー

再生中のディスクや USB デバイスのディスプレイ内容を切り替えます（19 ページ）。

⑥ OPEN/CLOSE ⏏ キー

ディスクトレイを開閉します（17 ページ）。

⑦ INDEX キー

ディスクのインデックスサーチをします (23 ページ)。

⑧ A-B キー

A-B リピートを設定します (21 ページ)。

⑨ REPEAT キー

リピート再生を設定します (21 ページ)。

⑩ RANDOM キー

ランダム再生を設定します (21 ページ)。

⑪ ▷ キー（再生キー）

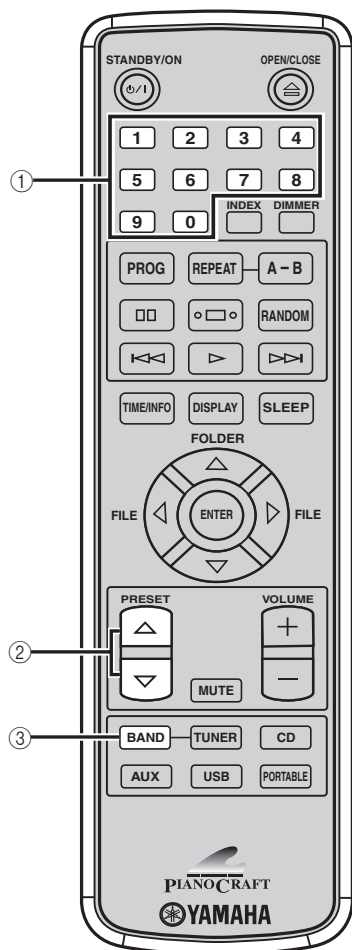
再生を開始します（17 ページ）。

⑫ ⏮、⏭ キー

再生中のトラックまたは次のトラックの開始位置にスキップします。長押しすると、早戻し／早送りします（18 ページ）。

⑬ FOLDER △/▽ 、FILE ◁/▷ 、ENTER キー

MP3/WMA フォルダやファイルの選択に使用します (18 ページ)。

■ TUNER モード

以下のキー操作は入力ソースに TUNER を選択したときの操作です。

① **数字キー**

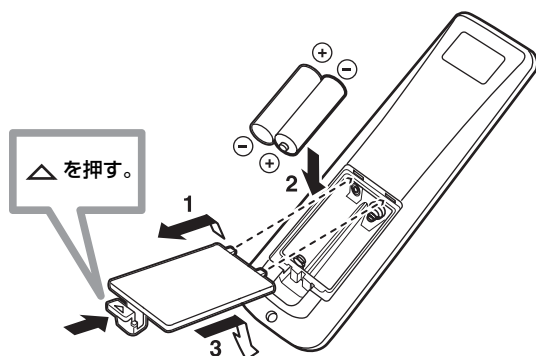
登録した放送局の番号を選択します（26 ページ）。

② PRESET（プリセット） △/▽ キー

登録した放送局を選択します (26 ページ)。

③ BAND（バンド） キー

FM と AM を切り替えます（16 ページ）。

■ リモコンに電池を入れる

1 **バッテリーカバーの △ マークを押しながら、カバーをリモコンから取り外します。**

2 **付属の単 3 乾電池（2 本）を、電池ケースに挿入します。**

電池の向き（＋ / −）を正しく挿入してください。

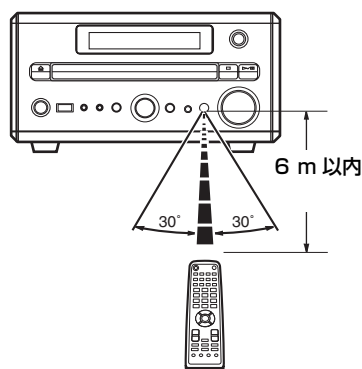
3 **バッテリーカバーをリモコンに装着します。**

■ リモコンの電池を交換する

リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。

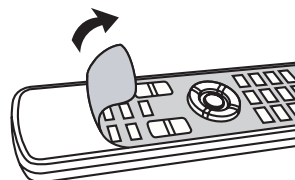
ご注意

· 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
· 種類の異なる電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性質の異なる場合がありますのでご注意ください。
· 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
· 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液に触れることのないよう十分ご注意ください。リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。
· 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。

■ リモコンを使用する

リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓（3 ページ）に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から 6 m 以内で正面から左右に 30 度以内です。

ご注意

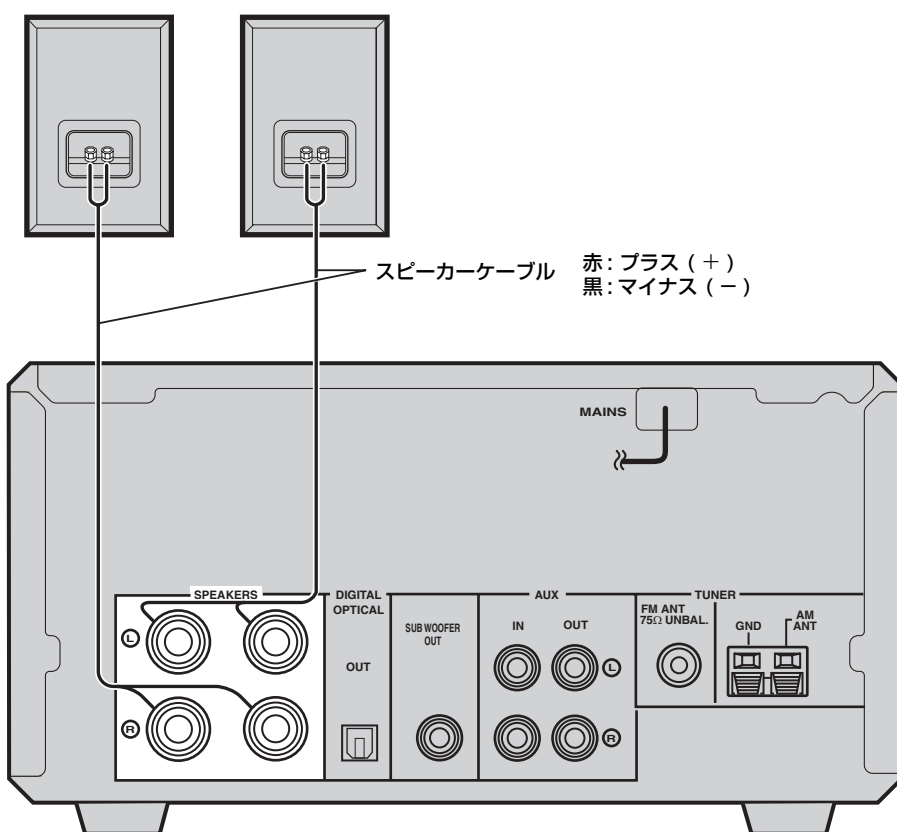
· リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
· リモコンを落としたり、リモコンに強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
· リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  – 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  – 極端に気温が低い場所
  – ほこりっぽい場所

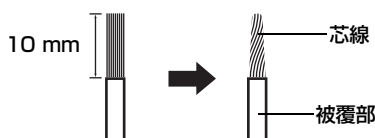
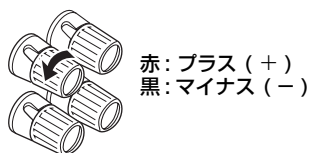
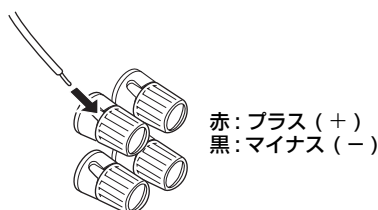
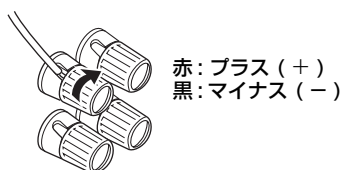
リモコンの外装保護シートは、はがしてご使用ください。

スピーカーを接続する

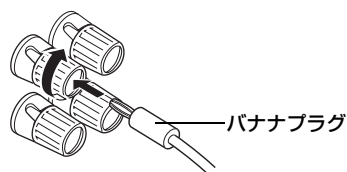
スピーカーを本機に接続します。ここではヤマハ NX-E700 とその付属ケーブルを使用した場合を例にとって説明します。スピーカーに付属している取扱説明書もご参照ください。

ご注意

- すべてのケーブルを接続するまで、本機の電源コードは接続しないでください。
- 端子の左右（L、R）や、極性（赤 : ＋、黒 : －）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると音が不自然になったり、低音が出なくなったりします。また、接続が不十分だと音がまったく出なくなります。
- スピーカーの芯線どうしが接触したり、芯線が他の金属部に接触することのないようご注意ください。本機およびスピーカーを破損する原因となります。
- スピーカーは、インピーダンスが6 Ω 以上のものをお使いください。

準備と接続

スピーカーケーブルを接続する

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10 mm ぐらいはがし、芯線をしっかりとよじります。

2 接続する SPEAKERS 端子をゆるめます。

3 SPEAKERS 端子の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込みます。

4 SPEAKERS 端子をしめ、スピーカーケーブルを固定します。

市販のバナナプラグを使う場合

市販のバナナプラグを使う場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。

■ スピーカーケーブルについて

スピーカーケーブルは２本のケーブルからなり、そのうち１本は極性を区別するために色や形状を変えてあります。
一方のケーブルを本機とスピーカーの「+（プラス、赤)」端子へ、もう一方のケーブルを「−（マイナス、黒)」端子へ接続してください。

ご注意

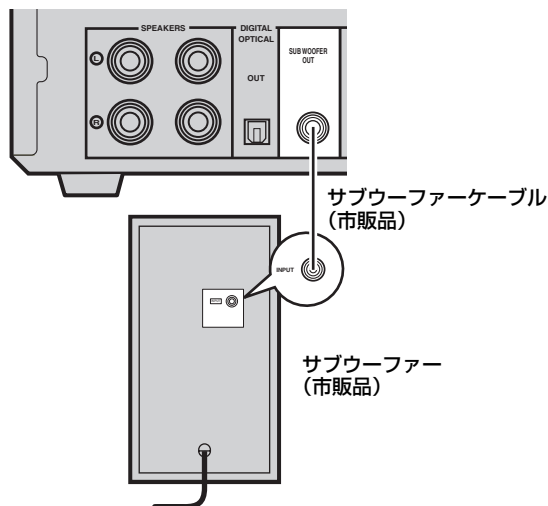
スピーカーケーブルは芯線部分だけを端子の穴に接続してください。ケーブルの被覆部（ビニール）まで差し込むと音が出ないことがあります。

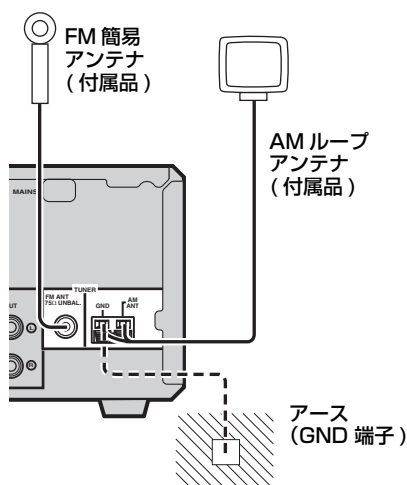
サブウーファーを接続する

本機にサブウーファーを接続すると、SUBWOOFER OUT 端子から音声の低域部分が出力されます。

ご注意

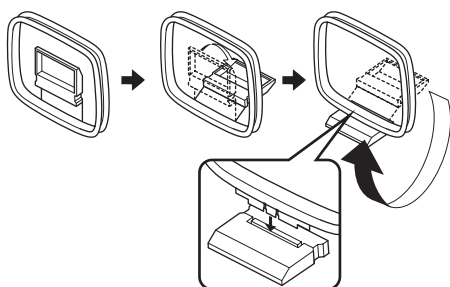
接続する前に、本機およびサブウーファーの電源コードが、AC コンセントに接続されていないことをご確認ください。

サブウーファーケーブルを使用して、本機の SUBWOOFER OUT 端子とサブウーファーの入力端子を接続します。

アンテナを接続する

本機で FM/AM 放送を受信するには、FM/AM アンテナを本機に接続する必要があります。本機には FM 簡易アンテナおよび AM ループアンテナが付属していますので、通常はこれらのアンテナをご使用ください。付属のアンテナでうまく受信ができない場合は、別売りの屋外アンテナをご使用ください。屋外アンテナの入手方法については、お近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

■　アース（GND）端子について

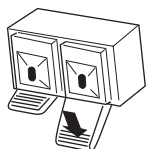
GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

AM ループアンテナを接続する

1 AM ループアンテナを組み立てます。

アンテナを壁に設置する場合は、ループアンテナを組み立てる必要はありません。

2 AM ANT 端子のタブを押し下げます。

3 タブを押し下げたまま、AM ループアンテナのどちらか 1 本の芯線を AM ANT 端子に接続します。

4 指を離してタブを戻します。

5 手順 2 ～ 4 と同様の手順で、AM ループアンテナのもう 1 本の芯線を GND 端子に接続します。

アンテナを本機およびスピーカーケーブルから離れた場所に設置します。

受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回して受信状態がよくなるように調節してください。

FM 簡易アンテナを接続する

FM 簡易アンテナを FM ANT 端子に接続します。

アンテナを本機およびスピーカーケーブルから離れた場所に設置します。

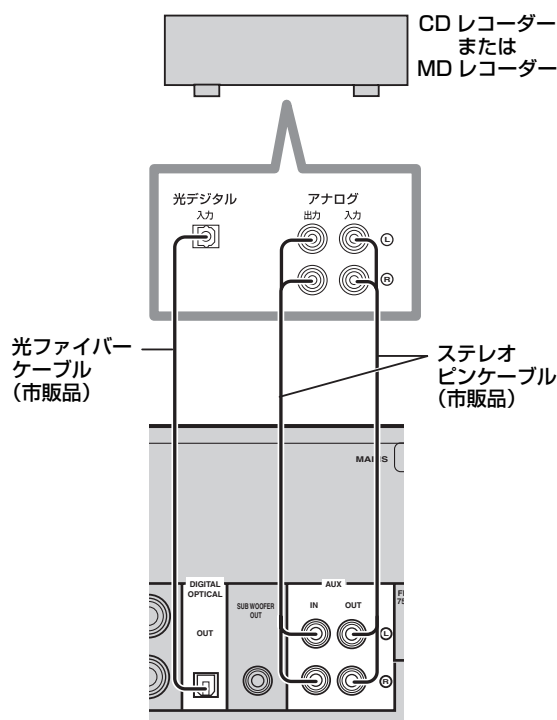
その他の機器を接続する

CD レコーダーや MD レコーダーなどの録音機器を本機に接続すると、接続した機器の音声を本機で再生したり（30 ページ）、本機で再生している音声を録音することができます（31 ページ）。ここでは本機と外部機器の接続について説明します。なお、外部機器の機能については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

CD レコーダーまたは MD レコーダーを接続する

● **市販の光ファイバーケーブルを使用して、本機の DIGITAL OPTICAL OUT 端子と CD レコーダーまたは MD レコーダーの光デジタル入力端子を接続します。**

● **市販のステレオピンケーブルを使用して、本機の AUX OUT 端子と CD レコーダーまたは MD レコーダーのアナログ入力端子を接続します。**

● **市販のステレオピンケーブルを使用して、本機の AUX IN 端子と CD レコーダーまたは MD レコーダーのアナログ出力端子を接続します。**

ご注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、AC コンセントに接続されていないことをご確認ください。
- チューナー（FM/AM ラジオ）の音声は DIGITAL OPTICAL OUT 端子からは出力されません。FM 放送や AM 放送を録音する場合は、市販のステレオピンケーブルを使用して本機の AUX OUT 端子と録音機器のアナログ入力端子を接続し、アナログ録音してください。

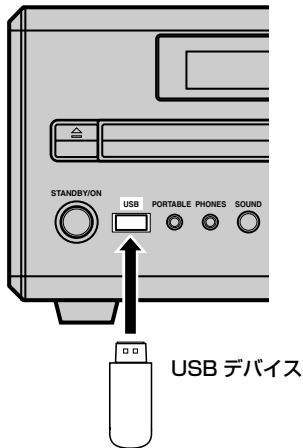
■ AUX IN/OUT 端子について

- AUX IN L/R 入力端子に入力されている信号を AUX OUT L/R 出力端子から出力することはできません。
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。アナログ信号はアナログ出力端子からのみ出力されます。

■ DIGITAL OPTICAL OUT 端子について

- 本機のデジタル端子は PCM 信号方式に対応しています。
- 本機のデジタル端子は JEITA 規格に準拠しています。デジタル接続で外部機器を接続する際は、JEITA 規格に準拠した光ファイバーケーブルをご使用ください。

USB デバイスを接続する

USB デバイスに保存した MP3/WMA ファイルを再生するには、USB デバイスを本機の USB ポートに接続します。USB デバイスの再生については、17 ページをご参照ください。

■ 本機で使用できる USB デバイス

本機で USB デバイスに保存された音楽ファイルを再生する際は、以下のことをご確認ください。

- USB マスストレージクラスに対応したフラッシュメモリ、ポータブルオーディオプレーヤーなどである。
- データが FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録されている。

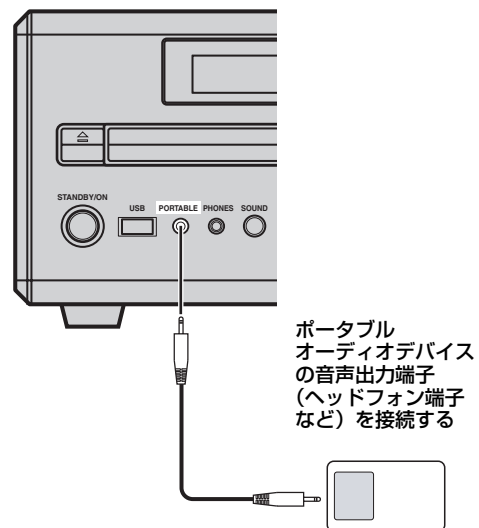
ご注意

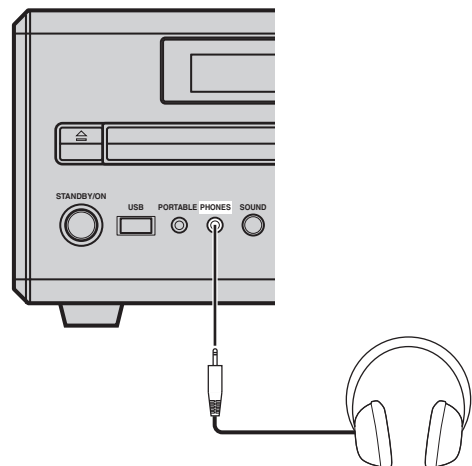
- 本機と USB デバイスを接続しても音が出ないときは、以下をお試しください。
  - 本機の電源をスタンバイにしてから再びオンにする。
  - 本機の電源をスタンバイにしてから USB デバイスをとりはずし、再び接続してから本機の電源をオンにする。
  - USB デバイスに AC アダプタが付属している場合は、AC アダプタを接続する。
- 上記を試しても再生できない場合は、USB デバイスが本機に対応していない可能性があります。
- WAVE データは本機で再生できません。
- USB マスストレージクラス以外のデバイス（USB チャージャーや USB ハブ）、PC、カードリーダー、外付け HDD などは本機に接続することができません。
- USB デバイスを本機と接続して使用しているときに、USB デバイスのデータが万一消失あるいは損傷した場合、当社は一切責任を負いかねます。
- すべての USB デバイスに対して、動作および電源の供給を保障するものではありません。

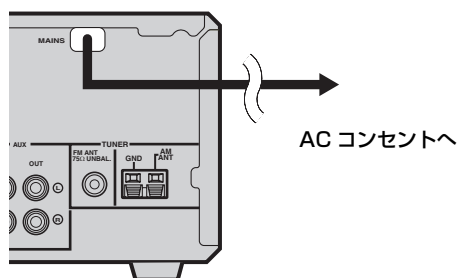
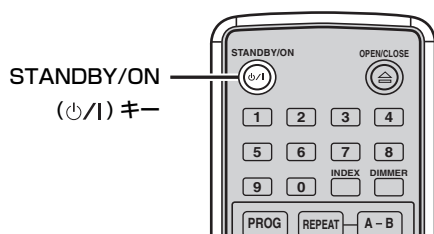
ポータブルオーディオデバイスを接続する

ご注意

接続する前に、本機およびポータブルオーディオデバイスの音量を下げてください。

お手持ちのポータブルオーディオデバイスを本機に接続することができます。市販の 3.5 mm ステレオミニプラグケーブルを使用して、本機の PORTABLE 端子とポータブルオーディオデバイスを接続します。ポータブルオーディオデバイスを本機で再生する方法については、30 ページをご参照ください。

ヘッドフォンを接続する

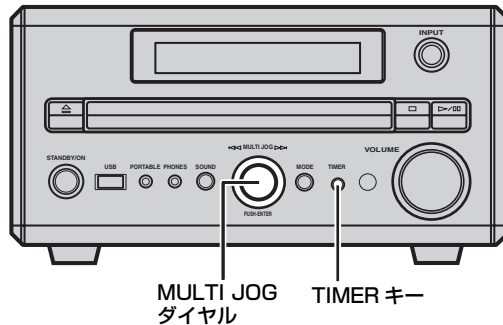
お手持ちのヘッドフォンを本機の PHONES 端子に接続します。

電源コードを接続する

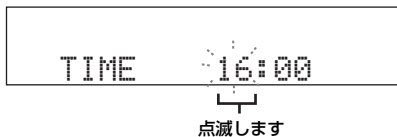
すべての接続が完了したら、本機とサブウーファー（市販品）の電源コードをコンセントに接続します。

電源をオン／スタンバイにする

STANDBY/ON キーを押します。

再度 STANDBY/ON キーを押すと、電源がスタンバイ（待機）に切り替わり、すべてのディスプレイが消えます（エコモード）。

- 本機の STANDBY/ON キーを押してスタンバイ／オンを切り替えることもできます。
- スタンバイ時には少量の電力を消費します。
- エコモード時に本機の MODE キーを押すと、エコモードが解除され、時刻が表示されます。電源はスタンバイのままです。
- 本機はスタンバイ時にも、設定などを保持します（メモリーバックアップ機能）。電源コードを AC コンセントから抜くなどして、電源が 1 週間以上供給されないと、保存された設定などは失われますので、ご注意ください。

時刻を設定する

本機のディスプレイに表示される時刻を設定します。

1 本機の TIMER キーを押し、すぐに MULTI JOG ダイヤルを押します。

2 MULTI JOG ダイヤルを回して「時」を設定し、MULTI JOG ダイヤルを押します。

3 MULTI JOG ダイヤルを回して「分」を設定し、MULTI JOG ダイヤルを押します。

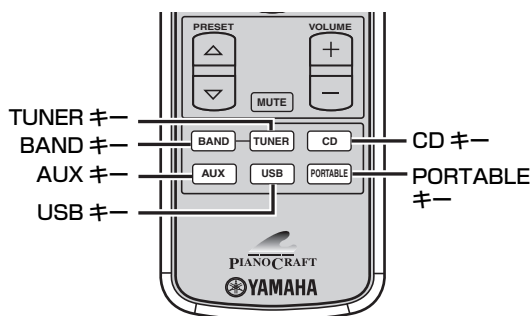
4 再度 MULTI JOG ダイヤルを押して決定します。

ご注意

- 時刻の設定ができなかった場合は、「00：00」が点滅します。
- ４分以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、時刻設定が消えてしまいます。この場合は、再度時刻を設定してください。

基本的なレシーバー操作

入力を選択する

スピーカー、アンテナ、その他の機器を本機に接続した後、以下の手順で本機の入力ソースを切り替えて、聴きたい入力ソースを選択します。接続方法については、9 〜 13 ページをご参照ください。

目的に応じて下記の手順を実行します。

入力を CD に切り替えるには：

CD キーを押します。

入力をチューナー（FM/AM ラジオ）に切り替えるには：

TUNER キーを押します。
BAND キーを押すたびに FM 放送と AM 放送が切り替わります。

入力を本機に接続した USB デバイスに切り替えるには：

USB キーを押します。

入力を本機に接続した外部機器に切り替えるには：

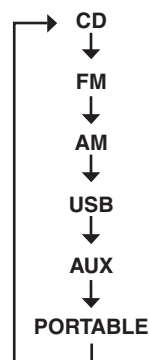
AUX キーを押します。

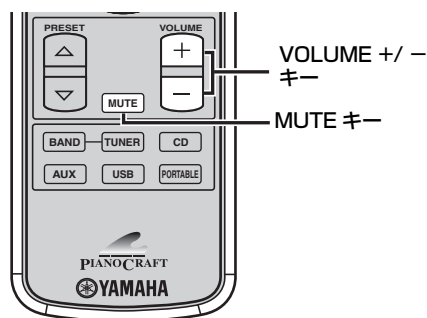
入力を本機に接続したポータブルオーディオデバイスに切り替えるには：

PORTABLE キーを押します。

■ フロントパネルの INPUT キーを使用して入力ソースを選択します

INPUT キーを繰り返し押します。

INPUT キーを押すたびに入力ソースが以下のように切り替わります。

音量を調節する

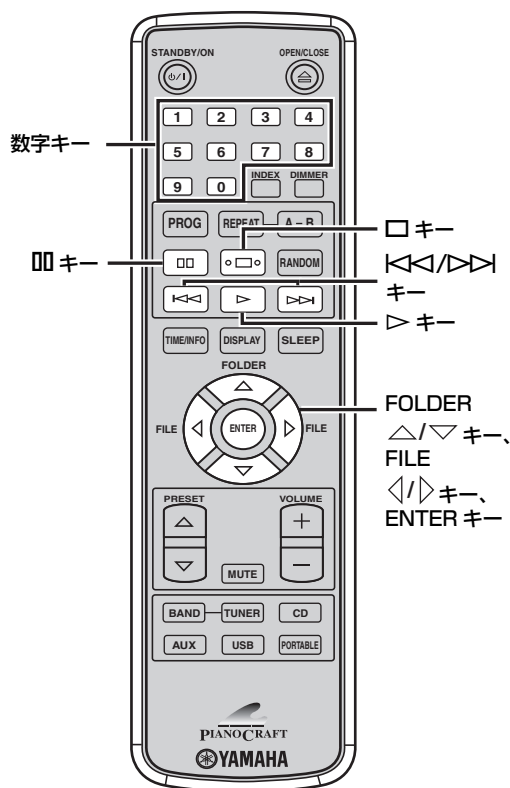
音量を上げるには VOLUME + キー、下げるには VOLUME －キーを押します。

フロントパネルの VOLUME ダイヤルを回して音量を調節することもできます。

■ 一時的に消音する

MUTE キーを押します。

消音を解除してもとの音量に戻すには、MUTE キーを再度押すか VOLUME +/ －キーを押します。

ディスクとUSBデバイスの基本的な再生操作

ここでは、本機で音楽CD、USBデバイス、MP3/WMAファイルなどを再生する際の基本操作を説明します。ディスクの種類により使用できる機能が異なります。本機で再生が可能なディスクの種類やディスクを取り扱う際のご注意については、「ディスクについて」（36ページ）をご参照ください。

■ ディスクの再生を開始する

▷ キーを押します。

💡

- フロントパネルおよびリモコンの ⏏ キーを押すとディスクトレイが開閉します。ディスクを入れた後、▷ キー、RANDOMキー、またはリモコンの数字キーを押してディスクを閉めることもできます。この場合は、ディスクトレイが閉まると同時にディスクの再生が始まります。
- フロントパネルの ▷/▯▯ キーを押してディスクの再生を開始することもできます。
- 本機にディスクが入った状態で電源がオンになると、自動的にディスクの再生が始まります。

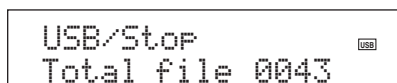
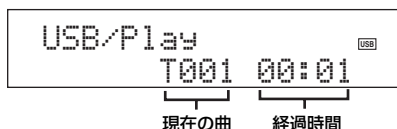
■ USBデバイスの再生を開始する

1 入力をUSBデバイスに切り替えます（16ページ）。

2 USBデバイスを本機に接続します。

ファイルやフォルダの数によって、読み込み時間が30秒を超えることがあります。

3 ▷ キーを押します。

USB/Play　USB
T001 00:01
現在の曲　経過時間

ご注意

- USBデバイスの総演奏時間は表示されません。
- 本機が表示できるファイルおよびフォルダはそれぞれ最大255個です。本機で再生されないファイルやフォルダの数は含まれません。
- USBデバイスがパーティション分割されている場合は、最初のパーティションを表示します。
- 選択したファイルにより、再生できない場合があります。
- 著作権保護がかけられているファイルは再生できません。
- 本機は4 GB以下の容量のファイルを再生します。

■ 再生を停止する

□ キーを押します。

💡

フロントパネルの □ キーを押して再生を停止することもできます。

■ 再生を一時停止する

▯▯ キーを押します。

💡

フロントパネルの ▷/▯▯ キーを押して再生を一時停止することもできます。

通常の再生に戻すには、▯▯ キーを再度押すか、▷ キーを押します。

💡

フロントパネルの ▷/▯▯ キーを押して通常の再生に戻すこともできます。

■ 早戻し／早送りする

早戻しするには ⏮ キーを、早送りするには ⏭ キーを長押しします。

· フロントパネルの MULTI JOG ダイヤルと MODE キーを使って早戻し／早送りすることもできます。再生中または一時停止中に MULTI JOG ダイヤルか MODE キーを押し、MULTI JOG ダイヤルを反時計回り（早戻し）あるいは時計回り（早送り）に回します。
· 通常再生に戻すには、フロントパネルの MODE キーを押します。または、フロントパネルの MULTI JOG ダイヤルか ▷/▯▯ キー、あるいはリモコンの ▷ キーを押すと、「PLAY」または「PAUSE」表示が４秒間点滅した後、通常再生に戻ります。表示が点滅している間は、フロントパネルの MULTI JOG ダイヤルで早戻し／早送りができます。
· 一時停止中に早戻し／早送りしている間は、スピーカーから音声が出力されません。
· MP3/WMA ファイルの一時停止中に早戻し／早送りすると、一時停止が解除される場合もあります。

■ トラックをスキップする

- 再生中のトラックの開始位置にスキップするには、⏮ キーを押します。または、フロントパネルの MULTI JOG ダイヤルを反時計回りに回します。
- 次のトラックの開始位置にスキップするには、⏭ キーを押します。または、フロントパネルの MULTI JOG ダイヤルを時計回りに回します。
- 前のトラックの開始位置にスキップするには、⏮ キーをすばやく２回押します。または、フロントパネルの MULTI JOG ダイヤルをすばやく反時計回りに回します。

■ トラックを指定して再生する

数字キーを押してトラック番号を入力し、▷ キーを押します。

数字キーを押したあと、トラック番号が確定するまで数秒間待って、自動的に再生を開始することもできます。

ご注意

· 録音状態により、録音順番どおりにトラックが再生されない場合があります。
· MP3/WMA ファイルの番号は、フォルダごとではなく、ディスクや USB デバイス全体を通して割り振られます。

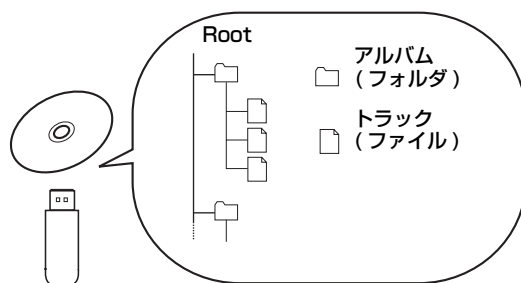
■ MP3/WMA ファイルやフォルダを選択する

1 **音楽 CD を再生する場合は、FOLDER △/▽ キーを押してフォルダを選択し、ENTER キーを押します。**
USB デバイスを再生する場合は、FOLDER △/▽ キーを押してフォルダを選択します。

2 **FILE ◁/▷ キーを押してファイルを選択します。**

3 **ENTER キーを押して選んだファイルやフォルダを再生します。**

■ MP3 および WMA ファイルについて

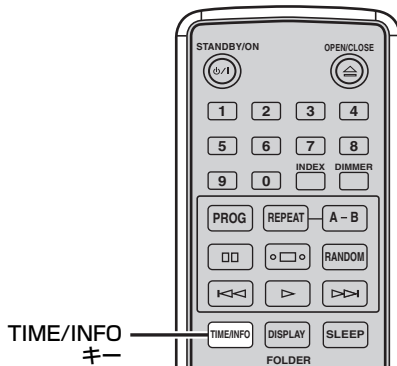
本機では、CD-R や CD-RW に収録した MP3 および WMA ファイルを、音楽 CD と同様に再生することができます。この際、下図のようにフォルダはアルバム、ファイルはトラックとして認識されます。フォルダの階層は反映されません。

MP3 とは？

MPEG-1 Audio Layer-3 の略で、音声データを圧縮するフォーマットの一つです。音楽 CD と同じレベルの音質を維持してデータ容量を圧縮することができます（37 ページ）。また、ファイルによっては ID3 タグが記録されています。ID3 タグとは、曲名、アーティスト名などの MP3 ファイルに記録されているデータです。

WMA とは？

Windows Media Audio の略で、MP3 と同様に音声データを圧縮するフォーマットの一つです。
MP3 よりも高い圧縮率で、データ容量を圧縮することができます（37 ページ）。

ディスプレイの表示内容を切り替える

ディスプレイ表示の内容を切り替えることができます。表示の種類は、ディスクや USB デバイスによって異なります。

再生中に TIME/INFO キーを繰り返し押します。

キーを押すごとに、下記の「音楽 CD を再生しているとき」のように、ディスプレイの表示内容が切り替わります。MP3/WMA ファイルを再生時の表示については、次のページをご参照ください。

ご注意

- 特殊記号など表示できないものもあります。
- CD-TEXT ディスクによってはテキスト情報が表示されない場合もあります。

■ 音楽 CD を再生しているとき

下記は、音楽 CD を再生中のディスプレイ表示例です。CD-TEXT ディスクの場合は、「トラック名」、「アーティスト名」、「ディスク名」も表示されます。

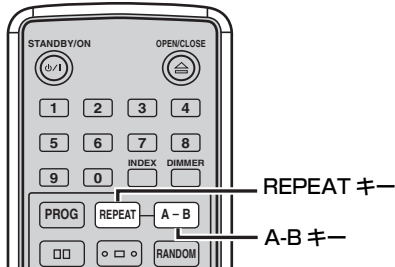
基本操作

■ MP3/WMA ディスクまたは USB デバイスを再生しているとき

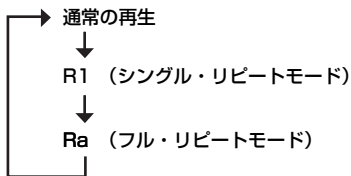
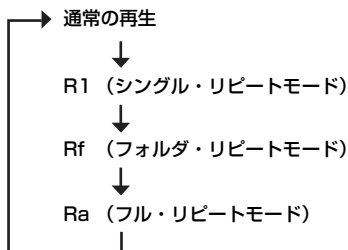
下記は、CD に記録した MP3 ファイルを再生しているときのディスプレイ表示例です。

* スクロール画面は「トラック名」、「アーティスト名」、「アルバム名」を順に表示します。

繰り返し再生する（リピート再生）

リピート再生を設定すると、トラック／アルバム単位で繰り返し再生することができます。また、右に記載の A-B リピートを設定すると、トラック内の指定した部分のみを繰り返し再生することが可能です。

再生時に REPEAT キーを繰り返し押します。

REPEAT キーを押すごとに、リピートモードが以下のように切り替わります。

音楽 CD のリピートモード

MP3/WMA ディスクまたは USB デバイスのリピートモード

■ リピート再生を解除する

REPEAT キーを繰り返し押して通常の再生に戻します。

ご注意

ディスクや USB デバイスを取り外すと、リピートモードは解除されます。

■ 指定した部分のみを繰り返し再生する（A-B リピート）

トラック内で開始位置と終了位置を指定して、その間の部分のみを繰り返し再生することができます。この機能はディスク再生時のみ使用可能です。

1 **A-B リピートを設定するトラックを再生中、開始位置として指定する箇所で A-B キーを押します。**

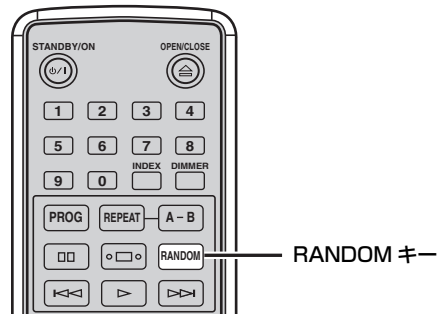
2 **終了位置として指定する箇所で A-B キーを再度押します。**

A-B リピート再生が始まります。

■ A-B リピート再生を解除する

再度 A-B キーを押します。

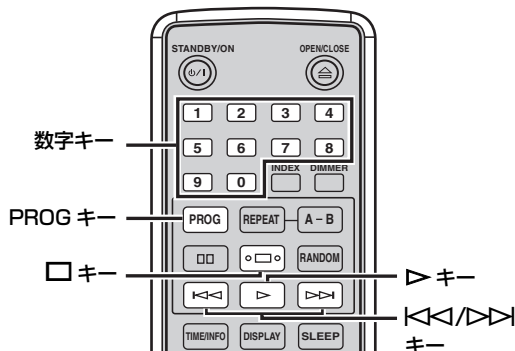
順不同に再生する（ランダム再生）

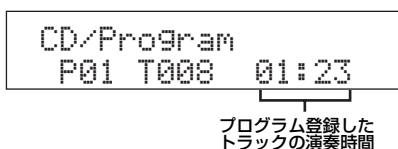
本機のランダム再生機能を使用してトラックを順不同に再生することができます。

RANDOM キーを押します。

■ ランダム再生を解除する

再度 RANDOM キーを押します。

好きな順序で再生する（プログラム再生）

プログラム再生とはトラックをお好みの順序に再生する機能です。ここでは音楽 CD の例を説明します。

1　ディスクの再生が停止している状態で、PROG キーを押します。

2　数字キーを押してプログラム再生に登録するトラック番号を入力します。

3　手順２を繰り返して、プログラム再生に登録するトラック番号をすべて入力します。

最大 40 トラックまで登録できます。

4　プログラム登録を終えるには、PROG キーを押します。

5　▷ キーを押してプログラム再生を開始します。

ご注意

- MP3/WMA ファイルの場合は、総演奏時間は表示されません。
- MP3/WMA ファイルの番号は、フォルダごとではなく、ディスクや USB デバイス全体を通して割り振られます。

■ プログラム再生に登録されたトラックを変更する

1　再生停止中に PROG キーを押します。

プログラム表示が現れます。

2　⏮/⏭ キーを押して変更したいトラックを表示します。

3　数字キーで新しい番号を入力します。

4　PROG キーを押します。

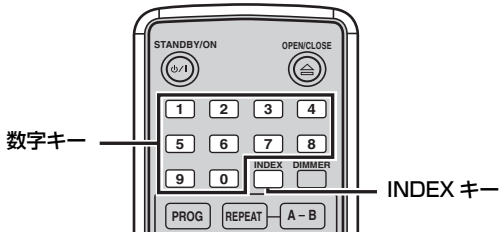
■ プログラム再生を解除する

再生停止中に □ キーを押します。

ご注意

ディスクトレイを開けたり、本機の電源をスタンバイにすると、登録されたプログラムの内容は失われます。

インデックスサーチ（音楽 CD のみ）

インデックス番号が登録された音楽 CD では、インデックス番号を指定して演奏を始めることができます。

1 再生中に INDEX キーを押します。

2 数字キーを押してインデックス番号を指定します。

```
CD/Index
  01  T001
```

■ インデックスサーチを解除する

再度 INDEX キーを押します。

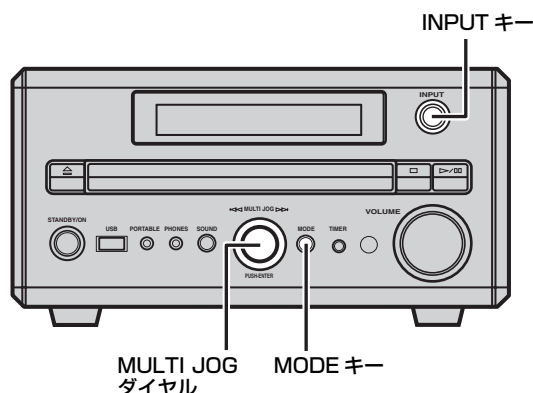
一つの曲をさらに小さな部分に区切り、番号付けしたものがインデックスです。インデックスが記録されているディスクには、解説書に IN:DEX マークがついています。

ご注意

- インデックス番号が記録されていないディスクもあります。
- 入力されたインデックス番号がディスクに存在しない場合は、本機は最後のインデックス番号から再生を開始します。
- ディスクによっては、再生が始まる箇所が実際のインデックスよりも少し前になることがあります。

放送局を選局する

本機では、FM/AM 放送を自動選局、手動選局、プリセット選局の３つの方法で選局することができます。お好みの方法で選局してラジオをお楽しみください。

💡
電波の弱い FM 放送局を受信する際は、リモコンの II キーを長押しして、本機の受信モードをモノラルにしてください。

自動選局する

早くて便利な選局方法です。ただし放送局の受信感度が良くない地域にお住まいの場合や電波の弱い放送局を受信する場合、聴きたい放送局が選局されない場合があります。この場合は右に記載の手動選局をご使用ください。

1 フロントパネルのINPUTキーを押してFMまたは AM を選択します。

2 フロントパネルの MODE キーを押して「TUNING MODE」を選択し、すばやく MULTI JOG ダイヤルを時計回りに回します。

低い周波数から高い周波数に向かって電波の強い放送局をサーチし、自動的に選局します。

💡
- サーチ中に自動選局を終えるには MULTI JOG ダイヤルを押します。
- 手順２で MULTI JOG ダイヤルを反時計回りに回すと、高い周波数から低い周波数に向かって放送局をサーチします。

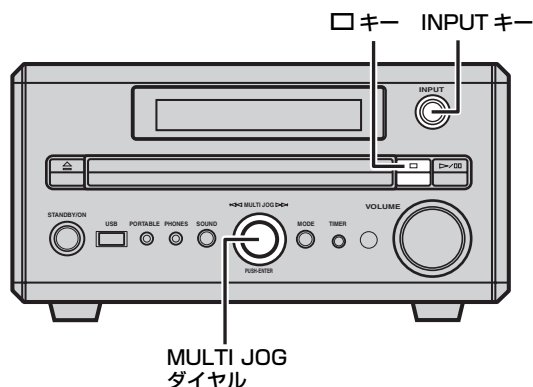
手動選局する

放送局の受信感度が良くない地域にお住まいの場合や電波の弱い放送局を受信する場合は、手動で選局することをおすすめします。

1 フロントパネルのINPUTキーを押してFMまたは AM を選択します。

2 フロントパネルの MODE キーを押して「TUNING MODE」を選択し、MULTI JOG ダイヤルを回して周波数を調節します。

放送局を自動登録する（自動プリセット）

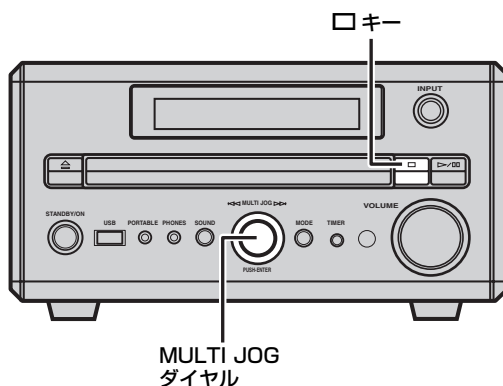
本機にはお好みの放送局（最大 FM 放送局３０局、AM 放送局２０局）を登録することができるプリセット機能が備わっています。放送局を登録しておくと、プリセット選局を使用して簡単に放送局を選局することができます。放送局の受信感度がよくない地域にお住まいの場合は、右に記載の手動プリセットをご使用ください。

1 **フロントパネルのINPUTキーを押してFMまたは AM を選局します。**

2 **MULTI JOGダイヤルを３秒以上長押しします。**

低い周波数から高い周波数へ向かって選局を開始します。放送局を登録する際、自動的にプリセット番号を割り当てます。

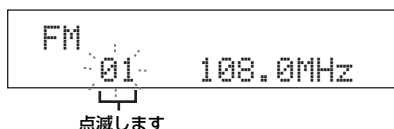
□ キーを押すと、現在選択されている放送局が消去されます。また、□ キーを３秒以上長押しすると、現在登録されているすべての放送局が消去されます。

放送局を手動登録する（手動プリセット）

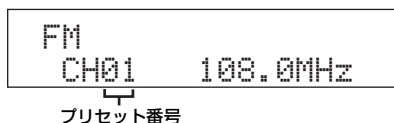
放送局の受信感度が良くない地域にお住まいの場合は、手動で放送局を登録します。

1 **登録したい放送局を選択します。**

詳しくは「手動選局する」（24 ページ）をご参照ください。

2 **MULTI JOG ダイヤルを押します。**

点滅します

3 **MULTI JOG ダイヤルを回して、FM 放送の場合は１から３０、AM 放送の場合は１から２０のいずれかのプリセット番号を選択します。**

リモコンの数字キーを押してプリセット番号を登録することもできます。

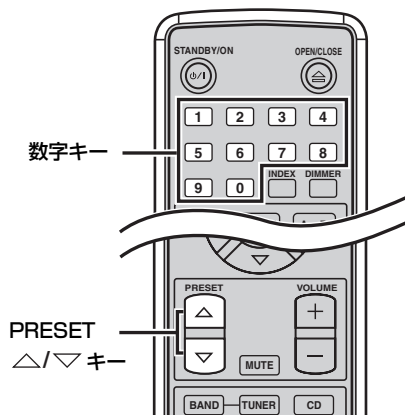
4 **４秒以内に MULTI JOG ダイヤルを押して放送局を登録します。**

プリセット番号

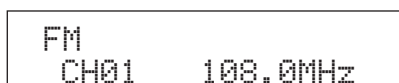
４秒以内に MULTI JOG ダイヤルを押さなかった場合は、選択したプリセット番号は失われます。

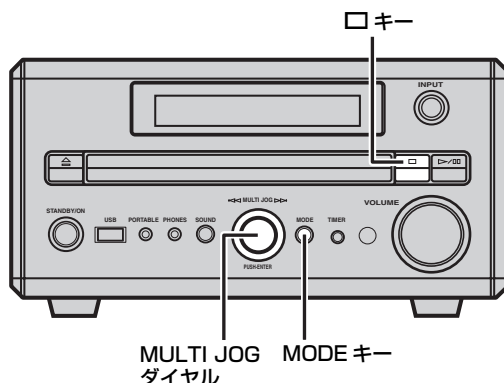
□ キーを押すと、現在選択されている放送局が消去されます。また、□ キーを３秒以上長押しすると、現在登録されているすべての放送局が消去されます。

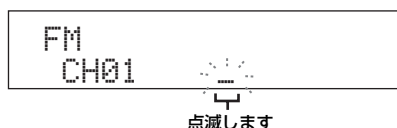
基本操作

登録した放送局を選局する（プリセット選局）

お好みの放送局を自動登録（25 ページ）または手動登録（25 ページ）しておくと、プリセット番号を指定して簡単に選局することができます。

数字キーまたは PRESET △/▽ キー を繰り返し押して、プリセット番号を選択します。

```
FM
 CH01   108.0MHz
```

フロントパネルの MULTI JOG ダイヤルを回してプリセット番号を選択することもできます。

登録した放送局に名前をつける

1　名前をつけたい放送局を選びます。
詳しくは、左記の「登録した放送局を選局する（プリセット選局）」をご参照ください。

2　MODE キーを３秒以上長押しします。

3　MULTI JOG ダイヤルを回して文字を選び、MULTI JOG ダイヤルを押して文字を決定します。

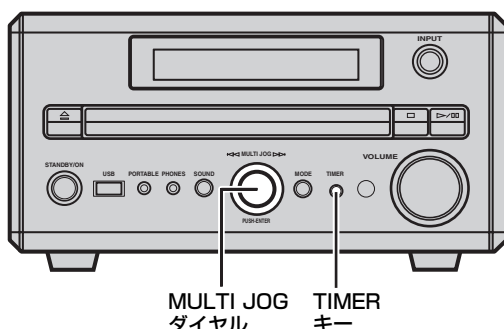
- 文字を決定するとカーソルが右に移動します。
- アルファベット（A から Z) と数字（0から 9）を入力できます。
- スペースを入力するには、「Z」と「0」の間の空白を選びます。
- 前に入力した文字を消すには、□ キーを押します。
- すべての文字を消すには、□ キーを３秒以上長押しします。

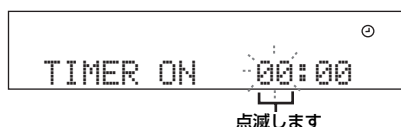
4　入力が終わるまでステップ３を繰り返します。

5　フロントパネルの MODE キーを押して名前を登録します。
名前をつけた放送局の周波数を確認するときは、リモコンの DISPLAY キーを押します。

タイマーを設定する

タイマー機能を設定すると、指定した開始時刻に電源が自動的にオンになり、あらかじめ指定した入力ソースの再生が始まります。また、指定した再生時間が経過すると電源が自動的にスタンバイになります。

タイマーを設定する前に本機の時計を合わせてください（15 ページ）。

1 **フロントパネルの TIMER キー押して「TIMER」を選択し、MULTI JOG ダイヤルを押します。**

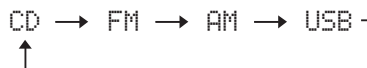
2 **MULTI JOG ダイヤルを時計回りに回して「TIMER ON」を選択し、MULTI JOG ダイヤルを押します。**

◷が点灯します。

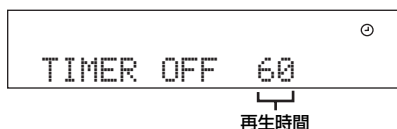
3 **MULTI JOG ダイヤルを回して再生を開始する時刻を入力し、MULTI JOG ダイヤルを押して決定します。**

時刻設定については、「時刻を設定する」（15 ページ）をご参照ください。

4 **MULTI JOG ダイヤルを回して再生したい入力ソースを選択し、MULTI JOG ダイヤルを押して決定します。**

MULTI JOG ダイヤルを回すごとに、入力ソースが以下のように切り替わります。

CD → FM → AM → USB

5 **MULTI JOG ダイヤルを回して再生時間を選択し、MULTI JOG ダイヤルを押して決定します。**

30 分から 90 分の間で、10 分間隔で再生時間を設定することができます。

■ タイマーを解除する

手順２で「TIMER OFF」を選択します。タイマーが解除され、◷が消えます。

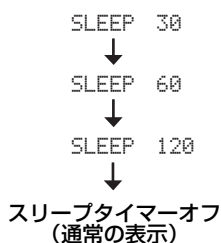
応用操作

スリープタイマーを設定する

スリープタイマー機能を使用すると、設定した時間が経過すると自動的に本機の電源をスタンバイにすることができます。おやすみのときなどに便利です。

■ リモコンを使用してスリープタイマーを設定する

SLEEP キーを押してタイマーを設定する時間を選択します。

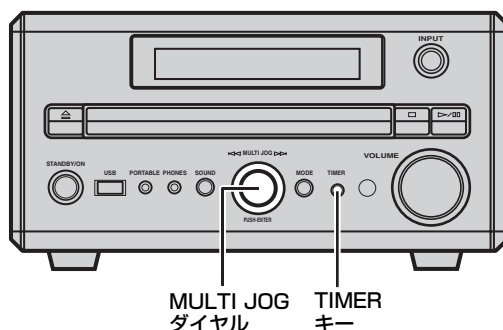
SLEEP キーを押すたびに設定時間が以下のように切り替わります。

スリープタイマーを設定すると、3秒後に上記の表示が消えます。

■ リモコンを使用してスリープタイマーを解除する

「SLEEP」表示が消えるまで SLEEP キーを繰り返し押します。

ご注意

- スリープタイマーは、本機の電源をスタンバイに切り替えますが、本機に接続した外部機器の電源を切り替えることはできません。
- 本機の電源をスタンバイに切り替えると、設定したスリープタイマーは自動的に解除されます。

■ フロントパネルでスリープタイマーを設定する

1 フロントパネルの TIMER キーを繰り返し押し、「SLEEP OFF」などと表示されたら MULTI JOG ダイヤルを押します。

2 MULTI JOG ダイヤルを回して設定時間を入力し、MULTI JOG ダイヤルを押して決定します。

６０分までは5分間隔で、６０分から１２０分までは１０分間隔で、１２０分から２４０分までは３０分間隔で設定できます。

■ フロントパネルでスリープタイマーを解除する

1 フロントパネルの TIMER キーを繰り返し押し、「SLEEP 30」などと表示されたら MULTI JOG ダイヤルを押します。

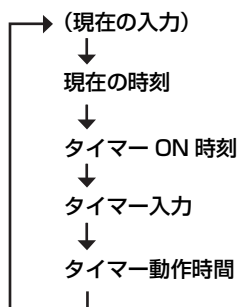
2 MULTI JOG ダイヤルを回し、「SLEEP OFF」が表示されたら MULTI JOG ダイヤルを押して決定します。

ディスプレイの表示内容と明るさを変える

本機のディスプレイの表示内容を変えたり、明るさを変えることができます。

タイマーを設定する前に本機の時計を合わせてください（15 ページ）。

■　ディスプレイの表示内容を変える

DISPLAY キーを押すごとに、ディスプレイの表示内容が下記のように変わります。

「タイマー ON 時刻」、「タイマー入力」、「タイマー OFF 時刻」はタイマー設定（27 ページ）をしている場合に現れます。

■　ディスプレイの明るさを変える

DIMMER キーを押します。

DIMMER キーを押すごとに、ディスプレイの明るさが普通（通常の明るさ）、やや薄暗い、薄暗い、の三段階で切り替わります。

DIMMER モードを解除するには、通常の明るさに戻るまで繰り返し DIMMER キーを押します。DIMMER 表示は３秒以内に消えます。

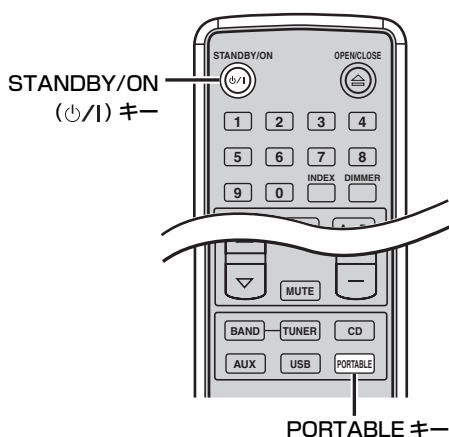
外部機器の音声を本機で再生する

外部機器を本機に接続すると、本機の機能を使用して外部機器の音声を再生することができます。外部機器の接続方法については「その他の機器を接続する」（12 ページ）をご参照ください。

ご注意

外部機器の操作については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

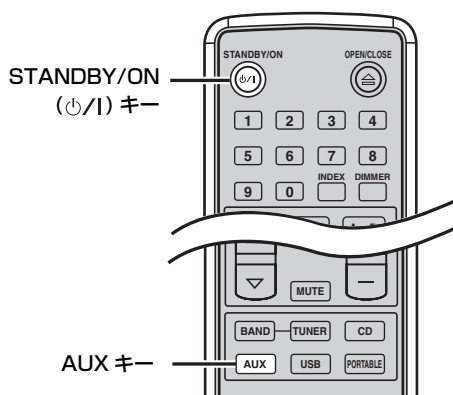
ポータブルオーディオデバイスを本機で楽しむ

市販の 3.5 mm ステレオミニプラグケーブルを使用して、本機の PORTABLE 端子とポータブルオーディオデバイスの音声出力端子を接続します。詳しくは「ポータブルオーディオデバイスを接続する」（13 ページ）をご参照ください。

1 ポータブルオーディオデバイスの電源を入れてから、STANDBY/ON（⏻/I）キーを押して本機の電源を入れます。

2 PORTABLE キーを押します。

3 ポータブルオーディオデバイスの再生を開始します。

その他の機器を本機で楽しむ

市販のステレオピンケーブルを使用して、本機の AUX IN L/R 端子と外部機器の音声出力端子を接続します。詳しくは「CD レコーダーまたは MD レコーダーを接続する」（12 ページ）をご参照ください。

1 外部機器の電源を入れてから、STANDBY/ON（⏻/I）キーを押して本機の電源を入れます。

2 AUX キーを押します。

3 外部機器の再生を開始します。

外部機器で録音する

レコーダーを本機に接続すると、本機で再生している音声をレコーダーで録音することができます。レコーダーの接続方法については、「その他の機器を接続する」（12 ページ）をご参照ください。

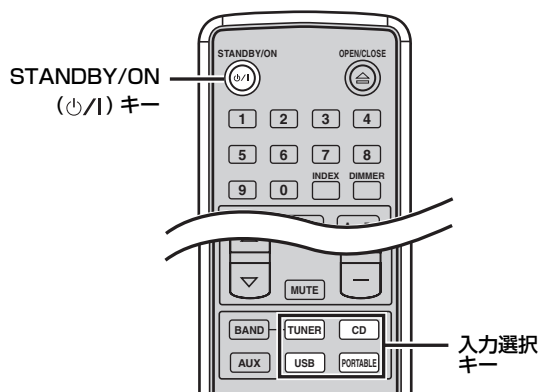
ご注意

レコーダーの機能については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

1 レコーダーの電源を入れてから、本機のSTANDBY/ON (⏻/I) キーを押して本機の電源をオンにします。

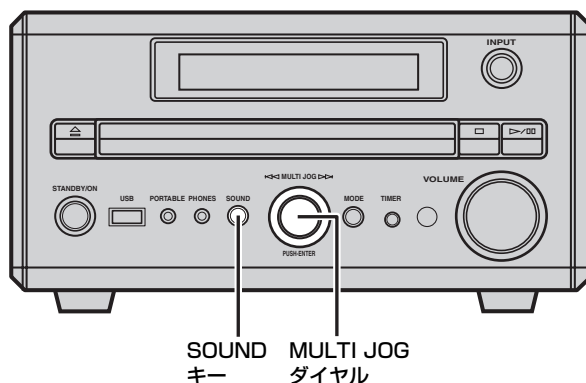
2 入力選択キーで本機の入力ソースを選択し、録音する入力ソースの再生を準備します。

3 レコーダーで録音を開始します。

4 入力ソースの再生を開始します。

ご注意

- ラジオの音は DIGITAL OPTICAL OUT 端子には出力されません。FM/AM 放送を録音する場合は市販のステレオピンケーブルを使用して、本機の AUX OUT L/R 端子とレコーダーのアナログ入力端子を接続してください。
- 本機に接続した外部機器の電源を切ると再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は外部機器の電源を入れてください。
- 録音を開始する前に、テスト録音を実行して正しく録音されていることをご確認ください。
- 録音した音声は個人でお楽しみください。著作権者に無断で営利使用することはできません。

サウンドを調節する

本機ではトーンやスピーカーバランスの調節ができます。

ご注意

サウンド調節は、本機の AUX OUT 端子から出力される音声には影響しません。

1 SOUND キーを繰り返し押して調節したいサウンドの種類を選択します。

SOUND キーを押すたびにディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

通常の表示

SOUND キーを押してから、MULTI JOG ダイヤルを押してディスプレイの表示を切り替えることもできます。

2 MULTI JOG ダイヤルを回してそれぞれのサウンドを調節します。

BASS： 低音のレベルを調節します。
(－ 10 ～ +10 dB)

TREBLE： 高音のレベルを調節します。
(－ 10 ～ +10 dB)

BALANCE： スピーカーのバランスを調節します。
(L（左）＋ 6 dB ～
CENTER ～
R（右）＋ 6 dB)

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、まず下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策
電源を入れてもすぐに切れる	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください（14 ページ）。
	スピーカーケーブルがショートした。	スピーカーケーブルが正しく接続されていることをご確認ください（10 ページ）。
	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに再度接続し、電源をオンにしてください。
スピーカーから音が出ない	音量が最小に設定されている。	音量を調節してください（16 ページ）。
	消音機能を使用している。	消音を解除してください（16 ページ）。
	入力ソースが正しく選択されていない。	正しい入力ソースを選択してください（16 ページ）。
	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください（9 ページ）。
	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスクおよび再生しようとしているディスクの種類をご確認ください（36 ページ）。
音が突然出なくなる	スリープタイマー（28 ページ）を設定している。	電源をオンにして再生しなおしてください。
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認し（9 ページ）、スピーカーバランスを調節してください（32 ページ）。
本機が正常に作動しない	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに再度接続し、電源をオンにしてください。
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。
本機に接続した AV 機器で再生しているソースを外部レコーダーで録音できない	アナログソースをデジタル録音しようとしている。	適切な入力ソースを入力してください。
時刻などの設定内容が消えた	電源コードがコンセントから抜けていたり、外部タイマーにより電源が切られていた場合など、本機への電源供給が４分以上遮断されていた。	電源供給が４分以上遮断されると、本機のメモリーに登録された時刻設定が消えてしまうことがあります。この場合は時刻を再度設定してください。

リモコンの操作

症状	原因	対策
リモコンで本機を操作できない	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、リモコンを使用する（8 ページ）をご参照ください。
	本機のリモコン受光部に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください（8 ページ）。

ディスクの再生

症状	原因	対策
特定の機能がはたらかない	ディスクの種類により本機の機能に対応していない場合があります。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類をご確認ください（36 ページ）。
▷ キーを押しても再生が始まらない（すぐに停止する）	ディスクがディスクトレイに正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットしてください。
	ディスクが汚れている。	ディスクの汚れを拭きとってください。
	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類をご確認ください（36 ページ）。
	本機を気温の低い場所から高い場所に移動したため、レンズ部に露が付いた。	本機を 1、2 時間ほど放置してから再度操作してください。
ディスクが勝手にイジェクトされる（ディスクトレイが開く）	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類をご確認ください（36 ページ）。
ディスクをディスクトレイにセットしてもディスプレイに「No Disc」というメッセージが表示されたままになりディスクが認識されない	ディスクがディスクトレイに正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットしてください。

放送局の受信

■ FM/AM 放送局の受信

症状	原因	対策
プリセット選局ができない（26 ページ）	本機のメモリーに登録された設定内容が消去された。	放送局を再度登録してください。
プリセット選局などの設定内容が消えた	電源コードがコンセントから抜けていたり、外部タイマーにより電源が切られていた場合など、本機への電源供給が 1 週間以上遮断されていた。	電源供給が 1 週間以上遮断されると、本機のメモリーに登録された設定内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定を再度やり直してください（24 ページ）。

■ FM 放送局の受信

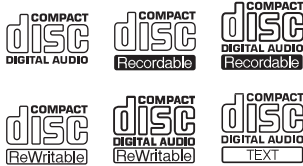
症状	原因	対策
ステレオ放送になるとたくさんの雑音が入る	FM 簡易アンテナが正しく接続されていない。	FM 簡易アンテナが正しく接続されていることをご確認ください（11 ページ）。
	選択している FM 放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の FM 放送局の受信感度が良くない。	手動選局で雑音を軽減するか（24 ページ）、別売りの屋外アンテナをご使用ください。屋外アンテナの入手方法については、お近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。
屋外アンテナを使用していても受信感度が悪い（音が歪むなど）	マルチパス (多重反射) などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。
自動選局ができない（24 ページ）	FM 放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の FM 放送局の受信感度が良くない。	手動選局で放送局を選局するか（24 ページ）、別売りの屋外アンテナをご使用ください。屋外アンテナの入手方法については、お近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

■ AM 放送局の受信

症状	原因	対策
たくさんの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具などの雑音を拾っている。	この種類の雑音を完全に除去するのは困難です。屋外アンテナを使用して、アース線を正しく接続すると雑音が軽減できる場合があります。
	本機とテレビの位置が近すぎる。（特に夕方～夜になると雑音が入る場合）	本機をテレビから離して設置してください。
自動選局ができない（24 ページ）	AM ループアンテナが正しく接続されていない。	AM ループアンテナが正しく接続されていることをご確認ください（11 ページ）。
	AM 放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の AM 放送局の受信感度が良くない。	手動選局で放送局を選局してください（24 ページ）。

ディスクについて

ディスクに関するご注意

本機は音楽 CD、CD-R/RW、8 cm ディスクが再生できます。

ディスクのロゴマークは、ディスクやディスクのジャケットに印刷されています。

ご注意

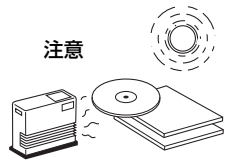
本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、これ以外のディスクは使用しないでください。

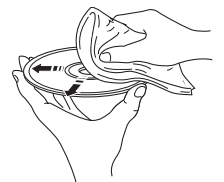
本機は下記のデータディスクに対応しています。
- CD-R/RW に保存された MP3 ファイル（サンプリング周波数 44.1 または 48 kHz ／ビットレート 32、64、96、128、192、256 または 320 kbps および可変ビットレート（CBR および VBR））
- CD-R/RW に保存された WMA ファイル（サンプリング周波数 44.1 kHz ／ビットレート 192 kbps 以下および可変ビットレート（CBR および VBR））
- ISO 9660 フォーマットの CD-R/RW

ご注意

- ファイナライズされていない CD-R や CD-RW ディスクは再生できません。ファイナライズとは、各ディスクの再生対応機器で再生できるように処理することです。
- 信頼できるメーカーのディスクを使用してください。録音状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。
- 表面に傷のあるディスクは使用しないでください。
- 著作権保護がかけられている WMA ファイルは再生できません。
- 48 kHz のサンプリング周波数は、44.1 kHz にダウンサンプリングされて再生します。

ディスクの取扱いについて

- ディスクを持つときは、ディスクの縁や中央の穴を持つようにし、表面に触れないでください。
- 再生時以外はディスクをトレイに入れたままにしないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- 市販のラベルプリンターで表面に印刷したディスクは使わないでください。
- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。

- ディスクが汚れたときには、乾いた柔らかい布で中心から外側へふいてください。レコードクリーナーやシンナーなどは使わないでください。
- 誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーなどは使わないでください。
- ディスクは１枚だけ装着してください。２枚以上重ねて装着すると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。
- ８ｃｍディスクは、アダプターを使用せずに確実にディスクガイド（凹部）に合わせて装着してください。正しく装着しないとディスクが脱落しディスクトレイが開かなくなることがあります。
- ディスクトレイが引き込まれるときに指を挟まないようにご注意ください。
- ディスク以外のものをディスクトレイに載せないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。

用語解説

■　MP3（MPEG-1 Audio Layer-3）
MPEG で利用される音声圧縮方式の一つ。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できるといわれています。

■　PCM (Pulse Code Modulation)
アナログ信号を圧縮せずに変調記録する方式。音楽 CD は、44.1 kHz/16 bit で記録されています。

■　サンプリング周波数／量子化ビット数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■　トラック
CD は、いくつかの区切り（トラック）に分けられています。これらの区切りの番号をトラック番号と呼びます。

■　WMA（Windows Media Audio）
Microsoft 社が開発した音声圧縮方式。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったままデータ量を約 1/22（64 kbps）まで圧縮できるといわれています。

主な仕様

プレーヤー部

再生システム
- CD、CD-R/RW

オーディオ部性能
- S/N 比（1 kHz）.. 100 dB 以上
- ダイナミックレンジ（1 kHz）.................. 100 dB 以上
- 全高調波歪率 0.005%以下
- DAC .... 192 kHz/24 bit

アンプ部

- L/R

定格出力
（1 kHz, 全高調波歪率 0.5%, 6 Ω）
.... 25 W + 25 W

実用最大出力
（1 kHz, 全高調波歪率 10%, 6 Ω)......... 30 W + 30 W

入力感度 / インピーダンス
AUX など .... 300 mV/47 k Ω

周波数特性（1 W, 6 Ω）
CD .... 20 Hz ～ 20 kHz ± 0.5 dB

全高調波歪率（1 kHz）
CD 1 W, 6 Ω.. 0.08% 以下

S/N 比 (IHF-A ネットワーク)
CD.. 95 dB 以上

出力レベル / インピーダンス
PHONES（ボリューム最大時）..................... 1 V/32 Ω

接続部

- デジタル出力.. 光端子
- オーディオ入力（L+R）....................................... ピンジャック
- オーディオ出力（L+R）....................................... ピンジャック
- オーディオ入力（L+R）............. 3.5φ（前面）ミニジャック
- サブウーファー出力.. ピンジャック

チューナー部

FM 部
- 受信周波数範囲 .... 76.0 ～ 108.0 MHz
- S/N 比（モノラル）... 75 dB
- 感度（S/N30 dB）........................... 7 dBμVm（EMF）

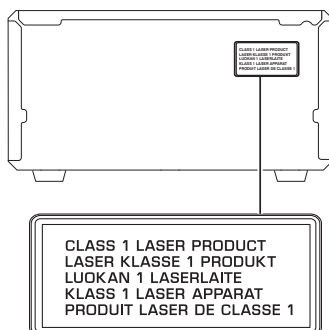
AM 部
- 受信周波数範囲 .... 522 ～ 1629 kHz
- S/N 比 .... 35 dB
- 感度（S/N20 dB）................................. 60 dB（EMF）

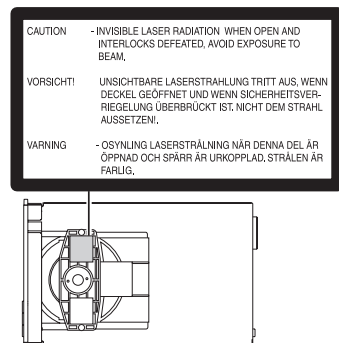
総合

- 電源電圧／周波数 .... AC 100 ～ 240 V, 50/60 Hz
- 消費電力.. 55 W
- 待機時消費電力 .... 1.0 W 以下
- 外形寸法 (幅 x 高さ x 奥行き)
.... 215 x 113 x 308.4 mm
- 質量.. 3.1 kg

仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

タイプ	GaAlAs
波長	780 nm
出力	最大 44.6 μW

クラス 1 レーザー製品

ご注意

この取扱説明書に記載されている以外の調節や操作は、有害な放射を引き起こす可能性があります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409
FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830
FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口

受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、
一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1